

## 令和元年度 戸隠公民館運営審議会 議事録

- 1 日時 令和2年2月20日(木) 午前10時から11時45分まで
- 2 場所 戸隠公民館 研修室
- 3 出席者 委員 7人 事務局2人(館長、係長) 合計9人
- 4 傍聴人 なし
- 5 取材 なし

### 6 会議事項

- (1) 令和元年度(平成31年度)公民館事業の実施状況について
- (2) 令和2年度戸隠公民館事業計画(案)について
- (3) その他

### 7 議事録(事務局説明を割愛し、質疑部分のみ)

- (1) 令和元年度(平成31年度)戸隠公民館事業の実施状況について  
(会長)

(宮川委員)

運営審議会は、館長の諮問機関ということか。僕たちが言ったことはどこまでの権限があるのか。

(館長)

色々な意見、どんな種の段階でもいいです。公民館として意見を入れて参考にして、もう少しふくらましたり、みなさん言ってもらったことを大事にしていくつもりです。

(宮川委員)

みんなの認識として、戸隠公民館と地域公民館の違いが分かっていない。戸隠公民館とは何やっているのか分かりにくい気がします。公民館とは何かということやお金の規模を含めてですが、市の単費なのか国からもらっているのかとかわからないですね。

だから難しい話だと思います。

(館長)

実は12月にやった文化芸能祭りで、公民館職員は4人しかいなくて、なかなかできないので、実行委員会形式でやった。その実行委員会の中で地域公民館と一緒にするのはいけないから、戸隠公民館文化芸能祭りと、敢えて戸隠公民館と頭に入れたという状況があります。

(小林委員)

私も住民自治協議会に席をおいているが、市立公民館と住民自治協議会でもっている地域公

民館との兼ね合いをどうすればいいかと、前から思っていました。住民自治協議会と一緒に話をしながらやっていけば、市立公民館職員の負担も軽減されるし、地域全体をまとめてやる事業としての意味も大きくなるので、その点も来年から少し修復しながらやってはどうか。

(館長)

大事な考えだと思います。

(小林委員)

事業をやって、人が多く来れば成功になる。戸隠公民館の事業報告を見て、これだけのものをこんなにやっているのかと思った。もう少し他のところと一緒にできたら面白いと思う。この小さい地域で別々にいろんな団体を作ってやってもうまくいかない。

(宮川委員)

戸隠公民館事務局としての動きが住民自治協議会とどう連携するかという話ですね。

(館長)

そこはしっかり明文化されています。表にもなっています。

(小林委員)

公民館長というのは、以前は市立公民館でありながら地域の公民館長も統率するような形の中で、戸隠地区全体のことを考えてきました。戸隠公民館としても地域公民館と連携してきたものです。

(宮川委員)

公民館事務局としての組織がちゃんと動いていれば、館長は看板という立場でいればいいという話になると思います。事務局がしっかりしていれば館長がどんな人になってもいいという話だと思います。

(会長)

確かに館長、それから小林さん言われたように、前は戸隠公民館があつて地域公民館があつて連携していましたね。

(小林委員)

地域公民館ごとに事業をいっぱいやっていた。今は役員のなり手もないという中で、事業をやっても地域の人が出てこないという問題もあるし、だから公民館とは何ぞやと、もう一度考え直す必要があるし、これは地域公民館でも考えなければいけない時にきているのではないかなと思います。

(館長)

公民館の一番の教育の目的は、社会教育。戸隠公民館は昔から地域の活性化の拠点だった。

(宮川委員)

ビジョンを持った中で公民館が動いているっていう話ですか。

(館長)

職員によっても得意分野があったり、色々あるから、組織としては社会教育を進めようという方向で動いていることは事実です。

(小林委員)

昔は公民館を盛り立ててやろうという、俺は農業に長けてるとか、俺は何に長けてるとかそういう人達を集めたリストを作ったと思うけど、ああいうものをまた復活して、色々な専門に持った人達を集めて協力を得て、何とか委員とか作ってやれば、職員の負担が少なくていいと思います。

(山中委員)

私は愛唱歌を楽しむ会をやっていて、今年は素晴らしい芸能祭になり 130 人になっていますが、こんなに大勢来たというので、歌ってくださった会の人たちもとても喜んでいました。

今までの館長さんも、園芸に長けてる館長さんには色々な所に連れて行って見せてもらったりもしましたが、住民の願いを叶えてやっていただける館長さんていうのをやっていただければと思いました。

(会長)

貴重なご意見、ありがとうございます。

(館長)

公民館事業の向上を図るためにこの会があります。審議委員会の願いを館長に言うてくれることが大事です。

(小林委員)

色々申し上げましたが、これだけの事業量でやって、これだけの人数が参加できたということは素晴らしいことだと私は思います。

(山中委員)

ここに書いてある予算というのは、人件費ですか？

(事務局)

ここに記載してある予算は、公民館職員人件費、各講座の講師への謝礼、すこやか学級は住民自治協議会共催のため住民自治協議会にも負担してもらっていますが、トガクシショウマでの材料費、みなさんへの謝礼、館報の印刷代もありますが、庁舎が大きいのでほとんどは庁舎の運営管理費です。窓掃除等も委託でお願いをしています。

(山中委員)

運動会の時に、随分お金がないみたいで、色々苦勞されているなと思っていたものですから。それは住民自治協議会との関連で窮屈になっているのですか。

(小林委員)

市から毎年来ていつも話すけど、公民館と支所がこんなに離れているところは他にはないんですよ。こんなに離れるとやりづらいよと言われながらやっています。

(宮尾委員)

成人式があるんですけど、この参加人数は成人者の人数ですか？

(事務局)

成人プラス実行委員の皆さん全員含めての人数です。

(宮尾委員)

成人者は何人くらいですか？

(事務局)

30人までいないと思います。

(宮尾委員)

次世代育成の赤ちゃん登校をしていただいて中学生と赤ちゃんと交流をしていく中で、中学生の学びがたくさんあり、お母さんたちも地域の方たちにいろいろと守っていただいて活動しているんだなということをおかえて、すごくありがたいなと思っています。子どもたちを生まれた時から、公民館や住民自治協議会等、いろんなところで育てていただいて守っていただいていると感じています。

(和田委員)

小学生の来年入学が12人でしたよね。

(宮尾委員)

今の1年生は14人くらいですね。戸隠だけではないんですけども。

(会長)

ありがとうございます。

他の委員さんで、何かこんなこと聞きたいとかいうことありますか。

(和田委員)

広報というか、どこの地区でも同じだと思いますが、例えばレクリエーション大会等のパンフレットが家に一切回って来ません。地区の関係かどうかわからないですけど大切にしたいですね。

(山中委員)

運動会のプログラムは来ましたが、それ以上の事は各戸には来ないですよ。各地区でレクリエーション大会も各地区の公民館でレクリエーション大会ありますよってチラシ作って出しましたけど、各戸には配らなかったと思いますよ。

(小林委員)

私の地区は種目のものは来るけれども、地区の公民館で手書きのようなものを作って、こういふことでこうだから出席してくださいと参加してくださいということで各戸みんな配ります。

(和田委員)

運動会は毎年来ますが、レクリエーションは、うちの地区はバレーやっている人がたくさんいることも関係してると思いますけど。

(館長)

広報も全戸配布と回覧があるんです。

(和田委員)

回覧はどうしても遅いから、終わってからくることも多々あるので。

(館長)

放送が入っていないところもあるし、配布物が届かない家もあるのは事実です。

(会長)

何年前くらいからか各地域公民館の中でも割り振られて、どうしても自分の与えられた行事は行くけど、違うのはその委員役員も行かないということがだいぶ広まってきてしまったと感じます。その区の中の一区民にしてみれば全体像が全然伝わらないようになっています。

(館長)

公民館委員会はやることがいっぱいあって、その当時はみんなでやっぺこうと、運動会の人とかレクリエーションの人とか分けてやったことは事実です。

(宮川委員)

公民館の存在意義という話からすると、社会教育のための組織だという話が一つと、もう一つが地域活性化のための組織だという2本の柱があるということは理解したんですけど、社会教育のための組織というのは今までやっている行事を続けていけばそれなりになるのかなと思います。地域活性化のためのって、なんかそろそろ真剣に考えないといけないと思います。さきほど子どもが減ってるって言うんですけど、実際に子どもが減っているわけではなくて、僕ら世代が減っているんですよ。だから子育て世代がいなくてことにもうちょっと具体的に見ていただいた方が、子どもがいけないというのと違う話になる。それを考える時期にきていると思います。長野県は移住したい県1位じゃないですか。地域ブランドとすると戸隠ってとてもいい所っていう認識があつて、僕東京に住んでいた時に「いい所に住んでるね」とよく言われました。子どもを育てるにはここは最高なんです。子育てするにはいいとか、地域ブランドという、歴史的なもの含めて戸隠の魅力はあるんですけど、それを地元の人が理解していないのか、活性化の方は、その柱として位置付けるとすると、何をどうやって行くのがいいでしょうかっていうところまで落とし込む、実際の実働段階に落とし込むのは大変だと思うんですけど、そろそろ実働しないと誰もいなくなってしまう。

(館長)

実はこういう話をする場がないんです。公民館ではそういう話をするための会を今までもやってきました。本当はそういうことを語り合うような、戸隠のことに興味を持つような人を育てるのが一番の公民館の使命だと私は思っています。住民自治協議会もそういうことがあるかもしれないね。

(小林委員)

確かに昔はそういうふうに議論したりする場や機会はかなりあった。今はどんな人でもいいから集まって色んな話をしようとしてもなかなか集まらない。ということは人がいないということが一つの原因であるけれども、場所の提供とやろうという機会がないので、なかなかできない。

(小林委員)

中学までは、子どもたちに聞くと「戸隠はいいよ。絶対戸隠に住みたい。」と。みんなで戸隠に自分が戸隠に育ったことについて誇りをもってやっているけれども、そこから高校へ行って大学へ行くと段々中学時代までの戸隠のイメージというものが薄れてしまって、なかなか戻って来ない。戻ってこようとしても働く場所がないと、これはだめだから他へ働きに行って、という悪循環とかいろんなものがあると思う。だからもう少しみんなを引き留めるのに、高校生もひっくるめた何かを作ってやれば違うかなと思っている。

(宮川委員)

世の中一流のところまで行って帰ってくれば仕事はついてくるなと思っている、結局何か突きつめて、国内に何人かしかいないところまでつきつめて帰ってくれば、仕事は別にそこにいなくても、ネットと新幹線があれば日本中動けるので、結構人材は出ていった方がいいと思います。一流になるまでが大変だと思いますが。

(小林委員)

それがうまく帰ってくればいいけどね。

(宮川委員)

地域活性化を何か事業化するのにコンセプトがないとだめだと思います。山古志村は地震で被害があつところですが、スローガンとして「帰ろう。やまこし」というキーワードがあつて、それはすごくわかりやすいし、それで山古志村は地震の後も人口減少率低いんですよね。そのキーワードを元に具体的にどう動くかで事業化することが必要です。

(館長)

大事なことだよ。これは住民自治協議会に要望ですが、結局どんな戸隠にするかっていうビジョンを示してほしいと思います。

(宮川委員)

住民自治協議会が昔無かったときは、議会があつてやっていたかもしれないですけど、今は住民自治協議会長が昔の村長ですよ。その村長が「君どう思うんだ」と言う相手って今いるんですか？

(小林委員)

いない。今年から地域振興委員会を立ち上げて、そこで色んなことを話し合つてやればいいのかとやり始めました。今館長にビジョンを作れと、いいこと言われたと思っているけれども頭が痛いですね。

(2) 令和2年度戸隠公民館事業計画(案)について

(宮川委員)

来年度は式年大祭の前年なので、式年大祭の祭事とは何ぞやって皆さん知らないと思うんですけど、それ聞くと結構面白いんですよ。どこかにもし余裕があれば入れてもらえばいいのかなと思います。

それと囲碁将棋を公民館でやっているの、中学校でやっている部活等で公民館と一緒にできるものがあればと思ったんですけど。とりあえず学校に足を運んでもらう機会というのを公民館と考えられればいいのかと思います。

(山中委員)

文化祭のことですが、前農協のビビット祭とやった時はよかったという声があるんですが、そういう外との関係はどうなのか、福祉大会で人権学習とはどういうふうになっているのか、今年せつかくいい方向を示していただいたので、是非盛り上がるように考えていきたいと思えます。

(会長)

せつかくの機会ですので、一人でも多く集まってもらえばいいという中で、他の行事と抱き合わせでできればそれに越したことはないと思うのですが、その辺はまた計画していく中でですかね。

(館長)

ほかの行事と一緒にやるのがいいかどうか含めて今後検討していかなくてはいけないと思います。

(宮下委員)

少人数で、少ない予算で皆さんよくやってくださっていると思っています。終了してしまう講座も残念ですけども、また新しい講座も考えてやってくださっているの、戸隠の住民として公民館活動に協力していかないといけないと改めて、こんなに一生懸命にやってくださっているのにね。私は有線聞いてああやっているんだくらいしか思っていないので、戸隠にいる住民としては協力してやっていかないといけないと思っています。

(会長)

全体で何かありましたら。

(宮川委員)

公民館で催しものをやるにあたってのデメリットって、外でご飯を食べれないということですよ。お昼またいでの行事はできないですよ。

(小林委員)

食事をからめて1日の開催というのはなかなか難しいんだよね。

(宮川委員)

ビビット祭に出ているうどんとか寿司とかを呼んだらいいのではないのでしょうか。

(館長)

基本的には公民館の中では、営利事業はできないので難しいところがあります。

(宮川委員)

今人が来る施設ってお金を使う場があっても満足感のある使い道、路上でクレープ食べるとかでもいいですけど、たぶんそういう施設に人がいます。そこへ来て100円、200円使って何か買うとか食べるとかというのは、すごい売り上げが伸びているので、何かそれを単品で計画するのではなくて、セットというか、それがあるからたまたま屋台が来てるといってもいいんですけど。

(館長)

私どもも前向きにいかなとイケないかもしれませんね。

(会長)

その辺、しっかり検討していただきたいと思います。  
有意義なご意見等々出していただいてありがとうございました。  
以上をもちまして、閉会とします。